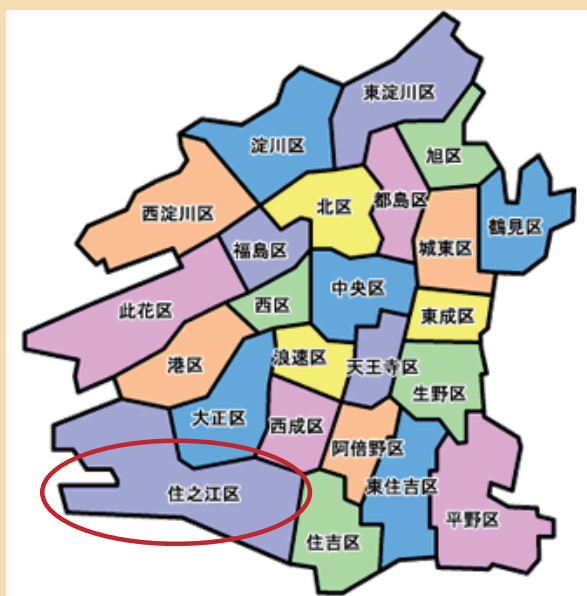


令和8年2月20日
大阪市活動報告会

災害研修会を開催して

住之江区在宅医療・介護連携相談支援室の取り組み

住之江区の概況



面積：20,68㎢（市内第1位）

総人口 116,483人（R7年3月末現在）

高齢化率 31.0%

65歳以上人口 36,264人

65歳以上独居世帯43%

（高齢者独居世帯数は、増加傾向である）

病院数：4（うち、在宅支援病院1）

在宅支援診療所：21（終末期看取り対応可能）

訪問看護ステーション：19

地域包括支援センター・ランチ：6

居宅介護支援事業所：55

訪問介護事業所：100

介護老人福祉施設：7

介護老人保健施設：7

グループホーム：13

テーマに対する背景

- 近年、全国各地で大規模災害が起こっている
今後発生が危惧される南海トラフの巨大地震が発生した場合、住之江区は未曾有の大災害にみまわれる可能性が非常に高く在宅医療・介護療養者にも多くの支援が必要となる
- 高齢化率の高い住之江区は、在宅医療・介護の提供率、需要率は今後も増えていくと予想され、在宅医療・介護の災害対策が必要となる

取組みに対するきっかけ①

住之江区の災害医療体制

- ①ハザードマップ、災害避難所の周知は区で取り組んでいる
⇒療養者はじめ在宅医療・介護従事者が災害時に活用できるのか？
- ②区・医師会により、平成21年に災害医療の整備が行われた
⇒以降の具体的対策や更新は行われていない
- ③在宅医療・介護の災害対策は、各事業所が機関型BCPを作成している
⇒作成までにとどまっている



取組みに対するきっかけ②

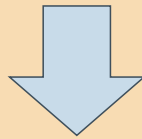
在宅医療・介護従事者の意見

令和6年度に多職種ヘヒアリングを行い、災害について下記の意見があった

- ・区や医師会での取り組みが知りたい
- ・訪問看護ステーション・訪問介護事業所・地域包括支援センター・社会福祉協議会・居宅介護支援事業所等は、機関型BCPを作成済みであるが、活用方法を模索中
- ・訪問介護員は、療養者宅へ直行直帰のスタッフが多いため現地での対応に困ることが多い
- ・水、食料品の備蓄、医療物品、薬品の備蓄はどうなっているのか

課 題

担当している療養者への支援について、平時より、『多職種間で情報共有』『多職種間で考える機会』が必要



災害が起こった時に、どの職種も、担当する療養者を助けたい、守りたいと意識しつつ、実際どのように動いたらいいのか？どのように支援すべか？等を不安で悩んでいる

相談支援室の取り組み

多職種同士が意見交換や情報共有をすることで仲間意識ができるのではないか



災害時に向き合うきっかけ作りと防災意識を高めることが災害対策に繋がっていくのではないかと



『積極的役割を担う医療機関』へ依頼し災害研修会を企画

**参加費
無料**

住之江区在宅医療連携拠点
「第1回 災害研修会」

このたび、研修会を開催させていただくことになりました。多職種の皆様と共に考え、災害時に向き合うきっかけ作りと防災意識を高める一助になれば幸いです。

日時：令和8年1月29日（木）14時～16時
 場所：すみのえ舞昆ホール
 （住之江区役所2階 区民ホール）
 対象：住之江区 多職種の方々
 定員：100名
 申込方法：QRコード・FAX・メール・MCS

第Ⅰ部：講演（60分）
『つながる力が命を救う』
 ー多職種で備える在宅ケアのBCPー
 平時からできる療養者と支援者の備え

講師：中村 俊紀先生
 （医療法人 旭医道会 中村クリニック院長）

第Ⅱ部：グループワーク（45分）
「災害シナリオ想定と影響分析」

問い合わせ先
 住之江区在宅医療連携拠点
 相談支援室コーディネーター
 安間・大平

TEL:06-6683-6380
 FAX:06-6683-6381

お申込みフォーム
 申込期限：令和7年12月1日（月）



<https://forms.gle/p8iKBF1NvYS7gCSRA>

主催：一般社団法人 大阪市住之江区医師会 住之江区在宅医療連携拠点
 共催：住之江区在宅医療・介護連携推進会議

災害研修会前に

・多職種に期待すること

- 『災害時に向き合うきっかけ作り』
- 『防災意識を高める』
- 『多職種同士が相談しやすい関係性』

・コーディネーターとして

- 『積極的役割を担う医療機関との連携を強化』し
- 『多職種が防災意識をもって療養者への支援ができるように橋渡し役をする』

アンケートを実施

- 研修会前後で、災害時の多職種連携や考え方に変化があったか？
⇒防災意識の向上や行動変容、連携を取る手段に繋げていく
- 研修会が、今後の業務に活かせる内容であったか？
⇒多職種がそれぞれの職場で実践可能な内容を再認識
- 今後の研修会に向けて希望する研修内容等があったか？
⇒災害について、自ら課題を求め取組む意識改革に繋げる

今後の取組みとして

- 今まで関わりがなかった協働まちづくり課や消防署と「顔の見える関係づくり」
- 災害時に多職種同士が使用できる情報ツールの検討

まとめ

- 医療、介護従事者が平時からできることを多職種同士で情報共有する
- 多職種がそれぞれの立場で療養者が平時からできることをともに考える
- 災害時の対応力は多職種連携につながる